



「育む」は「羽」と包むという意味の「くくむ」があわさって出来た言葉で、親鳥が雛鳥を羽で覆うようにして育てる様子が由来。最初は大切に育み、時が来れば巣立たせる。鳥たちを見かけると、何か育てる大切さを考えさせられます。

明るい光に溢れる五月。
畑でねぎたちを育む農人として
皆さまのもとへお届けすることの
有り難いを感じながらの日々。

コロナウイルスの蔓延で、大変な状況である中、様々な気持ちや感情でいっぱいになります。が、今月もねぎに感謝する気持ちを持って、出米することをしています。



製造業として営む会社として、畑、工場、事務スタッフ一同、お客様の為にも・お互いの為にも一人ひとりで今出来ることを行い、関わる全てのモノ・コト・ネギへ感謝の気持ちです。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

NO.156
2020年5月号
TEL: 075-601-0668

こと京都種美会社



今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語(事)を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

広々とした畑で立派に育つ、春葱のお届け

今月お届けする春葱は、京都市・亀岡市で11月末から12月にかけて定植を行った葱たち。12月は、温度が下がりすぎると定植直後の苗がダメになってしまうリスクもありましたが、農人たちが手をかけて無事収穫を迎えることができました。また、生育が間に合うかといった不安もあり京都初のベトコン設置を行ったりと対策をしましたが、結果、暖冬のおかげで通常よりも早く成長してくれました。今月も立派に育ってくれた春葱たちに感謝の想いです。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

夏に向けての春の畑仕事

6月の梅雨入りまでの間が、一年の中でも大事な時期になります。春葱収穫後の圃場整備、肥料まき、耕起、畝立て、定植、播種、育苗と作業量も多くなってきているので、各地域のリーダー筆頭に連携を取りながら日々の業務をこなしています。昨年入社の独立研修生も各地域で、先輩農人指導のもと、農機操作の技術習得に励んでいます。



ベテラン農人がトラクタ操作を横について見守ります。緊張感が伝わってきます。

3月に新しくベトナムからやってきた技能実習生も作業に慣れてきて定植もできるようになってきました。



こんなに細い苗ですが育つ頃には立派な葉になるので妻いす。

新型コロナウイルスについての影響

今年はコロナの影響もあり、残念ながら収穫できなかった畑・ねぎも多くありました。手間暇かけて育てたねぎが収穫できないというのは、農業の宿命とはいえ、いつも心が痛みます。収穫できないものは、速やかに廃棄するほうが良いのですがひよっとしたら使えるんじゃないかと、なかなかカットすることができずきれいな坊主畑になった圃場もあります。(←)

葱坊主として咲きたものは、食味が落ちるので出荷してません



また、外での農作業はいわゆる3密リスクは低いですが、加工場と同じ事務所を使用していますので、マスクの着用や体温管理を行って、農人一同コロナ感染予防に努めています。